

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 2 日現在

機関番号：21401

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520507

研究課題名 (和文)

日本人英語学習者の弱点を集中的に個別矯正する多読・速読プログラムの開発と実践研究

研究課題名 (英文)

Practical Research and Development of an Extensive &amp; Speed Reading Program to Assist Japanese Learners of English by Providing Intensive Support to Overcome Individual Weaknesses

研究代表者

岡崎 弘信 (OKAZAKI Hironobu )

秋田県立大学・総合科学教育研究センター・准教授

研究者番号：80405084

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：e-ラーニング・コンピュータ支援学習 (CALL)

## 1. 研究計画の概要

我々が調べた日本人大学生 193 人に対する英文読書速度の平均は 102.69WPM で、毎分 60 語から 120 語あたりが一般的な数値であった。これに対して、外国人向け VOA Special English のスピーチ・レート(発話速度)が約 100WPM で、一般(ネイティブスピーカー)向け VOA News では 140～150WPM、CNN や ABC News、映画で 180～200 WPM 程度である。

通常、ある英文を自分の読書速度より速く読もうとすると意味が捉えられなくなるが、同様に、スピーチ・レートと読書速度の大きな乖離の意味するところは、自分の読書速度よりも速いスピーチ・レートで話された場合、意味の理解が困難になってしまうということである。つまり、スピーチ・レートが約 100WPM の VOA Special English なら読解速度 102.69WPM の平均的日本人大学生はなんとか意味を処理しながら追いかけていけるが、スピーチ・レートが彼らの読解速度を上回る VOA、CNN、ABC などの News、映画となると、部分的に聞き取れるにしても、連続する発話に対して意味処理速度は明らかに及ばないのである。

本研究では、「ナチュラルな会話スピードに学習者の意味処理スピードが追いつかない」問題を解決するために、学習者個人の読解レベル・および語彙レベルを正確に判断し、その結果に基づいて持続的、かつ効果的な多読・速読学習法の提供を可能にするリーディング用プログラムの開発を行い、学習者の読解レベルを語彙面とセンテンス面から正確に分析する手法を確立することを目指している。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 多読・速読ブラウザの開発

本研究 2 年目までに

- ・Flesch Reading Ease、および、Flesch-Kincaid Grade Level の 2 種類のリーダビリティスコアを自動的に提示し、
- ・単一の語彙表をベースに語彙分布や語彙指数の提示により語彙レベルを判定し、
- ・読書時間と読書スピードをクリック一つで記録できる

機能を備えた多読・速読ブラウザ PREMA を開発した。

本研究 3 年目はスイッチャブル・ボキャブラリーリスト・システムの開発に成功した。これにより、ユーザーレベルでボキャブラリーリストを 100 種類まで搭載・変更することができ、ESP (English for Specific Purpose) 向けの教材でも語彙レベル判定がスムーズに行うことが可能となった。

(2) 日本人英語学習者に合わせた語彙表作成理想的な多読・速読教材を提供するために、検定教科書採用語彙を中心に日本人学習者の語彙力により近い語彙表を作成している。中学レベル (約 3,000 語) は完了しており、現在は高校レベルを処理中。

(3) ネイティブスピーカーによる多読用読み物の作成

ウェブ上での幅広い利用には、著作権をクリアする必要がある。そのため、日本人の英語レベルを熟知しているネイティブの英語教員を中心に、語彙レベル別の英文読み物の作成を行っている。

(4) 多読・速読およびリスニング・意味処理の継続的実験

速読による意味処理スピード改善に関するデータを収集を PREMA β により行っている。

現状、本プログラムでは英文読書のスピード

アップは確認されているが、リスニング力のアップは確認されていない。逆に PLIMA によるリスニング力のアップは安定的であり、TOEIC などの外部尺度にも適応してきた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

すべてにおいて順調というわけではなく、予想以上に進んでいるところと、想定よりも遅れているところがある。総合的に見て、おおむね順調というレベルである。

・予想以上に進んでいるところ

多読・速読ブラウザ PREMA にスイッチャブル・ボキャブラリーリスト・システムを搭載することができた。当初はプログラミングレベルでの語彙リスト追加を想定していたが、スイッチャブル・ボキャブラリーリスト・システムにより、各端末からユーザー自身の手でボキャブラリーリストを自由に扱えるようになったのは大きな収穫である。

・予想より遅れているところ

学習者個人の読解レベル・および語彙レベルの判定機能が、オリジナルの語彙リストの作成が遅れたため4年目の開発となってしまった。

### 4. 今後の研究の推進方策

時間的な遅れはあるものの、プログラムの開発そのものは順調であり、4年目は読解レベル・および語彙レベルの判定機能を被験者を用いて開発していく。さらに、汎用ブラウザを用いたプログラムの開発も並行してスタートさせる予定である。

これまではプログラマーが一人だけだったが、4年目は二人体制で、遅れを取り戻していく。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

S. HASHIMOTO, H. OKAZAKI, 「PREMA: An Extensive Reading Work-in-progress」, 『The Proceedings of Euro CALL 2010』, 2011年、査読有。

木戸和彦、岡崎弘信、「Web CALL システムの開発研究」, 『日本 e-Learning 学会 2010 年度学術講演会発表論文集』, 78-85、2010年、査読有。

岡崎弘信、「英文多読・速読を効果的に行うためのオリジナル・ブラウザの開発: PREMA  $\beta$  の Learning Management System を中心に」,

『創価大学英文学会英語英文学研究』66、83-95、2010年、査読無。

岡崎弘信、「英文多読・速読を効果的に行うための e-ラーニングプログラムの開発」, 『創価大学英文学会英語英文学研究』64、83-95、2010年、査読無。

H. OKAZAKI, H. NITTA, S. HASHIMOTO,

「Internet-based Personal Reading Program: a program for Japanese EFL learners to overcome individual weaknesses」, 『World CALL 2008 Proceedings』(on-line)、2008年、査読有。

[学会発表] (計6件)

岡崎弘信、新田晴彦、「映画英語と TOEIC」, 映画英語教育学会東日本支部例会、2011年2月、文京区立茗台中学校。

木戸和彦、岡崎弘信、「Web CALL システムの開発研究」, 日本 e-Learning 学会 2010 年度学術講演会、2010年11月、法政大学。

岡崎弘信、「プラクティス重視の CALL 教材開発」, New Education Expo 2010、2010年9月、東京ファッションタウン。

S. HASHIMOTO, H. OKAZAKI, 「PREMA: An Extensive Reading Work-in-progress」, Euro CALL 2010, September 2010, University of Bordeaux II。

岡崎弘信、「英文多読・速読を効果的に行うためのオリジナル・ブラウザの開発--PREMA の Learning Management System を中心に--」, 外国語教育メディア学会第49回全国研究大会、2009年8月、流通科学大学。

H. OKAZAKI, H. NITTA, S. HASHIMOTO,

「Internet-based Personal Reading Program: a program for Japanese EFL learners to overcome individual weaknesses」, World CALL 2008, October 2008, Fukuoka International Congress Center。